

# 私立大学図書館協会 総会・研究大会を開催して

きのした かずひこ  
木下 和彦

(三田メディアセンター課長)

## 1 はじめに

2012年8月30日、31日の2日間、三田キャンパスにおいて私立大学図書館協会の第73回総会・研究大会（以下「大会」）が開催された。この大会は、私立大学図書館協会（以下「協会」）が年に1度開催し、日本全国の私立大学の図書館長・職員が集まって行われる大規模なものである。1日めは前年度1年間の協会の活動を総括する“総会”と夕方の“意見交換会”が中心であり、2日めは協会が行っている海外派遣や研究助成の報告と、毎年設定されるテーマに基づいた講演やパネルディスカッション等の“研究大会”という構成になっている。今大会の運営は三田メディアセンターが中心となり、協会会長校である立教大学図書館と連携して運営した。今回の参加者は総会359名、意見交換会326名、研究大会435名（申込ベース、企業参加者含む）であった。

前回、本学会が会場となったのは1992年で、開設もない湘南藤沢キャンパスで開催された。今年はそれから20年目となり、加えて本学会における図書館のはじまりとなる慶應義塾図書館（旧館）が開館してちょうど100年という節目の年でもあった。

## 2 準備その1 ～1年前まで～

### (1) 準備は2年前から

会場となる大学は、協会の決まりごととして3年程度前から決められている。義塾が2012年の会場となることも、2009年頃にはすでに決定していたため、2010年9月に西南学院大学（福岡）で開催された第71回総会・研究大会の視察から、今回の開催に向けた準備がはじまった。

とはいえ、この時点の体制は事務長と筆者の2人のみであり、この視察は2日間のスケジュールや、会場運営の様子を記録に収めて2年後の運営イメージをつかむためのものであった。

### (2) 研究大会のテーマ決定

次の準備は、研究大会の方向を左右するテーマ決めである。この検討は、年を改めた2011年5月下旬に、管理職と若手からなる7名の検討チームを編成

し、おおよそ1ヶ月をかけて行った。

テーマ決めといっても、何でも良いわけではない。大学図書館界での他の研修や研究大会と重複しないようなテーマにする必要があるのはもちろん、協会に加盟する様々な規模の大学図書館にとって、規模の違いを超えて共有できるテーマが望ましい。その上、大会は1年後であるため、1年経ったら陳腐化してしまうようなテーマにはできない。

また、単にテーマが決まればよいわけではなく、そのテーマに見合う講演者も念頭に置いて考える必要もある。講演者が見つからないようなテーマでは、大会が成立しないことになってしまうからである。

テーマ検討に際しては、ブレインストーミング方式で各自が良いと思うようなテーマ、また話を聞いてみたいと思うような講演者、の両面から議論を開始した。イメージとしては（大学図書館の）新たな展開、挑戦、個性を活かす、未来への展望などといった方向性にする事、また基調講演には国際教養大学の事例を据えたいといったことから、最終的に「個性化の戦略—創造する大学図書館—」となった。

### (3) 開催日の決定、会場の確保

開催日も早い段階で決定する必要があった。1年前の2011年度の大会で、2012年度のテーマと開催日を告知するためである。大会には、メディアセンター所長が欠かせない存在となるため、開催日決定には所長の予定を確保することが重要であった。また開催時期は慣例で8月下旬～9月中旬の木曜と金曜、という決まりがあった。これらの条件を重ね合わせると8月30日と31日しかなかったことから、開催日は比較的容易に確定した。

ただし、この日に実際に学内施設が使えるかどうかは別問題である。しかも大会の基本会場となるホールだけでなく、事務局や昼食会場（大会では昼食を弁当とする慣わしとなっているため）など、多くの部屋が必要となる。管財部所管の施設は1年以上前からの予約を受け付けていないが、こちらの事情を説明し、なんとか内諾という形ながら会場を確保することができた。

また意見交換会は、250名を超える参加者が予想されたが、この人数を収容できる適切な施設が学内にはないため、近隣のホテルの宴会場を中心に会場を探す必要があった。会場担当を決め、学内他部署からの知恵も拝借しながら検討を重ねた結果、グランドプリンスホテル高輪を会場とすることができた。

### 3 準備その2 ～1年前から～

ちょうど1年前となる2011年度の大会期間中に、その年の会場校(当番校)と翌年の当番校(=慶應)との第1回の打合せが実施された。ここまでの間、手探りで準備を進めてきたため、この打合せで全貌が把握できると期待していたが、実際には顔合わせ程度の会であり、それまでの五里霧中の状態を払しょくすることはできなかった。

次の打合せは2012年1月であった。2011年度の大会も終わり、事後処理なども済んだところで、会長校と新旧の当番校が、三田キャンパスを会場として集まり、綿密なスケジュールの確認、資料の引き継ぎ、会場予定地の確認などを行った。これでようやく当番校として何をすればよいかを把握することができた。この打合せが、当日の運営に向けた本格的なスタートと言えるだろう。

1月の打合せ後から、より具体的な動きがスタートする。1月から5月までの間には、主に以下のことを進めていった。

- ・管財部の2012年度の施設予約開始にあわせ、正式な会場利用申請・確保(1月)
- ・協会の役員会(3月開催)に向け、予算案や当日のタイムスケジュールを作成(2月)
- ・講演者の選定・確保(2～3月)
- ・大会運営専用の銀行口座を開設(3月)
- ・講演者名を含めた当日の詳細なスケジュールを確定(5月)
- ・開催通知の作成・送付(5月)

この中で、苦勞した点を中心にいくつか補足しておきたい。まずは講演者の決定である。基調講演についてはテーマ決定時に国際教養大学に打診し、中嶋嶺雄学長にご講演いただける旨内諾をいただいていたので安心していただいていたのだが、難航したのはそれ以外の講演者であった。今回の研究大会では、基調講演の他に、事例報告3本を予定していたが、実際に

打診を開始したところ、様々な事情から発表を受諾してもらえないという事態が発生したのである。なるべく傾向が異なる事例を報告したかったため、調整は苦勞したが、最終的には企画の趣旨にふさわしい内容で3大学から発表の了解を得ることができた。しかしながら落ち着くまでには2カ月を要し、頭の痛い日々が続くこととなった。

また、銀行口座の開設も簡単ではなかった。この口座は協会名義で作成するため、創立年や会則、組織図などの提出が求められた。それでも銀行から見た場合に協会は任意団体という扱いとなるため、団体名は冠しても、事実上は個人名義での口座となり、連絡先は個人住所となるなど、かなり制限が多く手間のかかる作業となった。

### 4 準備その3 ～6月から～

6月を迎え、当日まで残すところ3カ月となった段階で、組織内の運営体制を構築した。事務局は当初から中心的に関わってきた事務長と筆者に加え、総務担当の2名を加えた4名体制とした。さらに意見交換会・昼食担当責任者1名、受付担当責任者1名、当日の司会2名を決め、これらのメンバーを中心に今後の準備を進めることになった。

また6月になると、開催通知を受け取った大学から続々と申込が届くようになる。受付は、申込書に記載された参加者氏名を記録する作業と、参加費の入金確認をする作業、さらにその両者に齟齬がないか確認していく作業が必要で、なかなか煩雑である。申込の締切後も、参加者の変更、追加、取消などが当日直前まで続き、かなり神経を使う作業になったが、これは総務担当の頑張りのおかげで、大きな混乱なく進めることができた。

7月を迎えると、大会で配布する資料の作成がヤマ場を迎える。総会で必要な資料を会長校から、また、それ以外の講演・発表の予稿を各講演者・発表者から提出してもらい、それに日程表や参加者名簿を加えて完成となる。これも作業に1カ月を費やし、8月上旬に印刷業者に入稿した(納品は大会の前日)。

昼食時に参加者に配布する弁当の業者選定もこの頃である。300個以上もの弁当を発注した経験など誰にもないため、対応してくれる業者があるのかという不安からスタートした。これは担当の責任者を

中心に、インターネットなどを使って業者をリサーチし、その中で良さそうな業者から弁当を(自費で)取寄せ、品評会を行うなどして選定を進めていった。こうした努力の結果選ばれた2社の弁当はいずれも素晴らしく、参加者にも大変好評であった。

8月上旬には、再度会長校と打合せを行い、当日に向けて、見落としがないこと、具体的にどの項目を会長校と当番校のどちらが行うのか、など細かな確認を行った。また当日の係分担やその仕事内容も詳細に決め、組織内での体制固めも進めていった。

## 5 大会当日<sup>1)</sup>

こうして迎えた大会当日は、結果的には大きな混乱もなく無事終えることができた。ここでは当日の様子について、印象的な点について触れておきたい。

**受付：**1日目は担当者9名、2日目は6名の体制をとった。2日間の参加者は2日目の受付は不要となるため、2日目は多少縮小しての体制とした。受付は大学名順としたが、氏名と間違えて並ぶ方もおり、掲示の方法に若干問題を残したが対応自体は円滑に進んだ。

**記録(撮影・録音)：**従来、撮影は当番校のスタッフが行っていたが、技術不足できれいな写真を残しにくいということがあった。後の記録作成にも影響するため、撮影はカメラマンを外注することとした。また音声の録音も、記録の文字起こしに使用するため、これも外注することとした。

**地域連携室による慶應グッズ販売：**遠方からの参加者もあり、お土産を買いたいという需要がある。これに応えるため、学内の地域連携室に依頼して、主に休憩時間中に慶應グッズ販売のブースを出店してもらった。特に饅頭は大変評判がよく、2日目は仕入れた50個が数分で売り切れるほどであった。

**見学～特に演説館と100年展～：**大学図書館関係者が集まるため、本大会では図書館見学は恒例となっている。そのための見学対応体制を敷くとともに、展示室では開館100年展を開催した。また通常は非公開の演説館も特別に2日目の昼休みのみ公開した。

**インフォデスク：**いわゆる企業ブースである。5月下旬に、協会と関係のある企業を中心に出展を募り、最終的な出展社数は13機関・団体となった。申込はこれよりも多かったが、スペースの関係で謝絶

した企業もあった。各社限られた条件下の中で工夫を凝らし、参加者・企業の双方にとって貴重な情報収集の機会となったようである。

## 6 今後の作業

大会は無事終了したが、まだ残されている仕事がある。主なものは以下の通りである。

- ・大会不参加の大学への大会資料の送付
- ・業者等への支払い、会計報告書の作成
- ・大会記録(協会報)の作成・印刷
- ・来年当番校(中京大学)との引き継ぎ

最終的には作成した会計報告を、来年3月に開催予定の協会の役員会で承認を受けて、ようやくこの大会に関する仕事から解放される予定である。

以上、大会運営について述べてきた。次に大会会場となるのは、また20年後になるかもしれないが、この記録がその際の参考になれば幸いである。

本稿ではそれぞれ名前を挙げることはしなかったが、三田メディアセンターの全スタッフおよびメディアセンター本部の協力なしに、大会を成功させることはできなかった。この場を借りて関係した全ての方に御礼を申し上げる。

## 注

- 1) 大会当日の内容については以下の資料を参照
  - ①第73回私立大学図書館協会 総会・研究大会資料(会期：2012年8月30日～31日 会場：慶應義塾大学) ※当日配布資料
  - ②私立大学図書館協会会報 138号、私立大学図書館協会(2013年初春発行予定)

